

1. 那霸市 2. 松本市 3. 弘前市 4. 浜松市

1. 空港周辺に広大な農地が広がり、アジア向け農産物の輸出が中心となっているため

2. 欧米諸国との貿易の拠点として、19世紀から大規模な国際空港として整備されたため

3. 首都圏に近接しており、日本国内の全ての空港の中で最も滑走路数が多いため

4. 東アジアの主要都市との地理的な距離が近く、短時間での移動が可能であるため

1. 干拓地 2. シラス台地 3. 扇状地 4. カルスト台地

1. 臨海部に鉄鋼業や自動車産業などの大規模な工場が集積しているため、第2次産業の就業者割合が最も高く、生産年齢人口の割合も非常に高い。

2. 県庁所在地として行政機能や情報通信業が集中しているため、第3次産業の割合は高いが、都市開発により子育て世代の人口が増加している。

3. 広大な土地を活かした大規模な農業や畜産業が盛んであるため、第1次産業の就業者割合が他の都市に比べて高く、若者の流入が続いている。

4. 旅館や飲食店などの観光関連のサービス業に従事する人が多いため、第3次産業の就業人口割合が極めて高いが、少子高齢化や人口減少という課題も抱えている。

1. 耕地面積に占める畑の割合が極めて高く、広大な土地を活用した畜産が非常に盛んである。
2. 生乳や乳製品の生産額が全国1位であり、冷涼な気候を活かした酪農が行われている。
3. 米の産出額が最も多く、広大な平野を利用した単作地帯が形成されている。
4. 近郊農業が発達しており、鶏卵や野菜などの生産が産出額の大部分を占めている。

1. ①親潮（千島海流） ②リマン海流 ③寒流
2. ①親潮（千島海流） ②対馬海流 ③寒流
3. ①黒潮（日本海流） ②対馬海流 ③暖流
4. ①黒潮（日本海流） ②リマン海流 ③暖流

1. 環境問題への対策として沿岸部の工場をすべて閉鎖し、福岡市を中心とした商業と観光業のみに特化する政策をとったことで、工業出荷額は減少傾向にあった。	2. 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。	3. 1980年以降、製造業が県外の愛知県や神奈川県へ流出したため、工業地帯を縮小し、九州地方の特産品を活かした農業中心の産業構造へと転換した。	4. 石油危機を契機に北九州工業地帯の鉄鋼業をさらに強化し、海外からの原料輸入に頼らない自給自足の体制を整えることで、製造品出荷額を維持した。
---	---	--	---

1. 大規模な干拓事業が行われ、直線的な海岸線が延びているため。 2. 島が非常に多く、海岸線が複雑に入り組んでいるため。 3. 半島がほとんど存在せず、県全体が円形に近い形状をしているため。 4. 海岸線がなだらかで、広大な平地が海沿いに広がっているため。

1. 一年を通じて発生し、冬には大量の降雪をもたらすため、屋根の傾斜を急にするなどの建築様式がとられている。
2. 夏から秋にかけて接近することが多く、強風や大雨による自然災害をもたらすため、事前の備えが重視されている。
3. 突発的に発生する地殻変動が原因であり、大規模な津波を引き起こす可能性があるため、高い防潮堤が築かれている。
4. 活動を休止していた火山が急に噴火することで発生し、農作物に深刻な灰害をもたらすため、防灰ネットが活用されている。

1. 断層：地震などの地殻変動により、地層にズレが生じてできた
2. カルデラ：火山の噴火やその後の陥没によって形成された
3. シラス台地：火山噴出物が積もってできた、水はけのよい台地
4. 盆地：周囲を山地に囲まれ、地殻変動によって相対的に低くなった

1. 親潮 2. 黒潮 3. 対馬海流 4. リマン海流

1. 水が地下に浸透しやすく水田としての利用が困難なため、畑作や畜産が行われている。

2. 標高が高く冷涼な気候であるため、寒さに強い果樹の栽培に特化している。

3. 海岸に近く塩害の影響を受けやすいため、塩分に強い農作物のみを栽培している。

4. 土壌に栄養分が極めて豊富であり、一度の作付けで多量の米が収穫できるため。